

機械移植用夏まきハクサイセル苗に対する液肥施用効果

[研究のねらい]

機械移植用夏まきハクサイセル苗は、コンパクトな草姿にするために施肥量を制限して育苗しています。しかし、このような苗は窒素含量が低下して、定植後の初期生育が劣ってしまいます。そこで夏まきハクサイのセル苗に対する定植直前の液肥施用による初期生育促進効果を明らかにします。

[研究の成果]

- ①窒素を制限した苗に、200倍の液肥（OKF2:14-8-16）を定植直前の1～2日前からの2～3回施用すると、コンパクトで窒素含量の高い苗となり、定植後の初期生育が向上し生育が安定します（図1、写真1）。
- ②収量も液肥施用により増加しますが、定植4日前からの液肥5回施用では、定植直後に葉の縁に壊死が発生して減収する場合があります（図2）。

[成果の活用面・留意点]

- ①施肥法により、従来に比べてセル苗の定植適期を拡大することが可能になり、天気予報に基づく定植日の設定が容易になります。
- ②セル苗の徒長が著しい夏まき葉菜類に適用します。



写真1 液肥施用苗の定植8日後の生育
注)基肥が無施用の場合

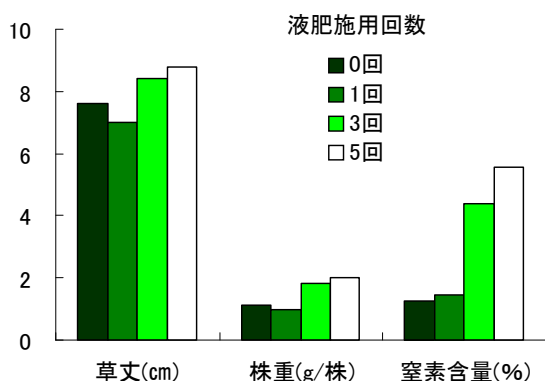


図1 定植直前の液肥施用回数と苗の生育

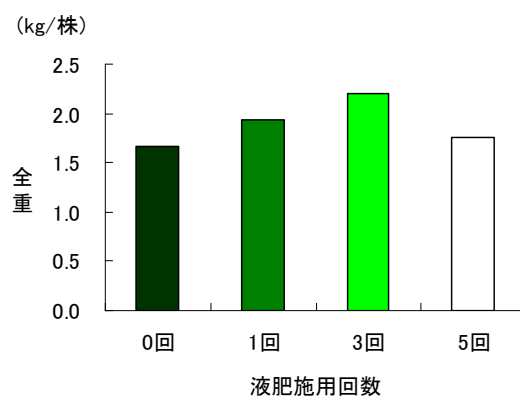


図2 液肥施用回数と収穫開始前の生育

実施年度：平成7～9年

担当者：平田滋、藪野佳寿郎、西森裕夫